

3. 省エネルギーに取り組みましょう

まずは、現状把握から始めましょう

今まで以上に効果的な省エネルギー活動に取り組んでいくには、まずは現状把握に努める必要があります。担当者を中心に次のような流れで現状把握活動を始めましょう。

電気や燃料の使用状況の確認が必要です。



現在の電気の使用状況（機器名、機器数量、使用電力量、使用時間など）や燃料の使用状況（燃料名、燃料使用機器、使用量など）を調査します。

現状把握のための専門チーム編成など他部門（部署）の協力を得ることが有効です。

1 使用機器を確認しましょう

例えば、次のように施設毎に燃料を整理してみます。

【本社】

燃料等区分	使用機器等
電気	照明、空調、OA機器、エレベーター、自動販売機
都市ガス	空調
灯油	暖房器具
ガソリン	社有車
軽油	社有車（トラック、ワゴン）
A重油	なし

【工場】

燃料等区分	使用機器等
電気	照明、空調、動力機、天井換気扇、フォークリフト

2 燃料使用量を調べましょう

電気、都市ガス、ガソリン、軽油など燃料毎に使用量を調べてみましょう。

現状把握として最も望ましいのは各部門や施設毎の燃料使用量、金額を調べることですが、「負担が大きすぎて難しい」、あるいは、「金額ベースでしか把握できない」という方は、金額での比較でも構いません。

また、これから1カ月とか半年という期間を決めて新たに使用量を把握してみるのも良い方法です。

3 それぞれの機器の使用状況を調べましょう

例えば、次のように施設毎に燃料を整理してみます。

【本社】

使用機器	現在の使用状況
照明	点灯基準…特に定めていない。天候や季節による基準なし 点灯時間…一番早く出勤した人が点灯。消灯は最後に帰る人が行う。
空調	稼働期間…社員の「暑い」「寒い」の申し出により稼働している。 設定温度…冷暖房温度ともに明確な設定温度は定めていない。 社員の申し出により温度調整している。
OA機器	パソコンは社員1人に1台体制である。始業時からスイッチを入れている。営業等で長時間外出する際にはスイッチを消すよう指導しているが、徹底できていない。
社有車	社有車の管理は各自に任せている。毎日の走行距離と行き先を把握するための運行日誌は特に記載していない。

【工場】

使用機器	現在の使用状況
照明	照明のラインの関係上、人が作業していないエリアでも、勤務時間内は常時点灯している。
灯油 ストーブ	納品トラックが頻繁に工場に出入りするため、電動シャッターは開けっ放しの状態で、工場内に冷気が入るため、常時使用している。
アーク 溶接機	朝出勤と同時に電源を入れ、退社時に電源をOFFするまで電源は入れっぱなしである。当然、昼休み中も電源は切っていない。

使用している機器の種類や台数、使用年数なども把握できると、省エネ機器への更新などの検討に役立ちます。

省エネルギー活動計画を立てましょう

省エネルギー活動に取り組んでいくためには、調査した現状活動をもとに、どんな改善を図っていくか具体的な活動内容と目標を掲げていく必要があります。



1 省エネ検討会を設置しましょう

各部署の代表による省エネルギー検討会を設置しましょう。設備機器の運転管理を業者に委託している場合には、委託業者にも参加してもらいましょう。どういう燃料をどのくらい減らすという具体的な目標を明確にし、そのために必要な省エネルギー活動を決めましょう。

2 達成すべき目標を決めましょう

(1) 削減する項目を決める

- ・ 現状活動の確認結果から「使用量が多いものは何か」「経費負担が大きいものは何か」などを確認します。
- ・ 確認した中から削減する項目を選べば、大きな効果が期待できますが、「取り組みやすい」とか「全従業員が取り組める」、「無駄をなくす」などの視点から項目を決めても構いません。

(2) 項目毎に削減目標を決める

- ・ 削減目標は目標期間と目標数値で設定します。
- ・ 目標期間は、1年から3年程度の短期間に設定します。
- ・ 目標数値は、最初から根拠のある数値を設定することは難しいので、方針的な目標数値を設定しても構いません。
- ・ また、数値を設定せず、単に「〇〇の燃料使用量を減らす」などとしても構いません。

目標を決める際のポイント



- ・ 具体的でわかりやすい
- ・ みんなで取り組むようにして一人だけががんばる目標にしない
- ・ 誰がみても達成不可能な高すぎる目標にしない

3 具体的な取り組み内容を決めましょう

最初から多くの取り組みを決める必要はありません。次のような点を考慮し、決めていきましょう。

- ・ 取り組みやすいものは何か
 - ・ 使用をやめることができるものはないか
 - ・ 時間を制限できるものがないか
 - ・ 減らせるものはないか
 - ・ 何が効果的か
 - ・ 全員で取り組むことができるものは何か
- など

【具体的な取り組み参考例】

●照明・空調等の省エネルギーの工夫

- ・ 日中は窓側の照明を消す
- ・ 昼休み時は不要な照明を消し、残業時は必要最小限のスペースのみ点灯する
- ・ 照明器具の配置等を見直し、無駄な照明をなくす
- ・ 冷暖房の温度を適正に設定する（例 冷房28℃、暖房20℃）
- ・ カーテンやブラインドを上手に利用し、冷暖房効果を高める
- ・ OA機器は、長時間使用しないとき電源を切る
- ・ 複写機、パソコン等のOA機器はエネルギー消費の少ない製品を使用する
- ・ エレベータの利用は極力控え、最寄りの階は階段を利用する
- ・ インバーター照明を導入する

●社有車のエコドライブ

- ・ 近距離は自転車を利用するなど自動車の使用を控える
- ・ アイドリングストップに努める
- ・ 急発進、急加速、空ふかしを控える
- ・ 経済速度で走る
- ・ タイヤの空気圧を適正に保つなどこまめに車の点検整備を行う



●製造工程の管理の強化など

- ・ 機械設備等の点検、掃除を定期的に行い、適正運転を維持する
- ・ 機械設備などは必要がなければ主電源を切る
- ・ ボイラーの熱損失を防止する（蒸気配管設備等の断熱・保温）
- ・ 受変電設備の無負荷運転時の電力損失を防止する（無負荷時の変圧器停止）
- ・ 圧縮機の電力損失を防止する（吸込側フィルター等の目詰まり防止）

【省エネルギー活動計画例】

（例1）削減目標「事業所の電力使用量を2008年度において2005年度比5%削減」
（5%削減すると、年間で〇〇万円のコスト削減になります）

- 取組内容
- ・ 冷房温度を28℃、暖房温度を20℃に設定する
 - ・ 昼休み時は不要な照明を消す
 - ・ O A機器や作業機器は使用しないとき電源を切る など

（例2）削減目標「自動車の燃料使用量を1年間で10%削減」
（10%削減すると、年間で〇〇万円のコスト削減になります）

- 取組内容
- ・ アイドリングストップに努める
 - ・ 急発進、急加速、空ふかしを控える
 - ・ こまめに車の点検整備を行う

省エネルギー活動を実践しましょう

取り組み目標や取り組み内容が決まったら、いよいよ実践です。

社員への理解と協力を得て着実に省エネルギー活動に取り組みましょう。また、取り組んだ効果をしっかりチェックし、一層の取り組み推進に役立てましょう。

1 社員に目標や取り組みの周知を図りましょう

（1）各部門長を集めた幹部会での周知

まず、各部門長を集めた幹部会で省エネ活動の目標や取り組み内容をしっかり伝えましょう。各部門長は、朝礼などを利用して所属の社員に周知を図りましょう。

（2）社員を対象にした省エネ説明会の開催

社員研修の機会などを利用して、「なぜ、今、省エネ活動に取り組むのか」「具体的に何をしたら良いのか」が理解しやすいように説明会を開催しましょう。

2 実践のためのしくみづくり

省エネ活動を着実に進めるには、社員自らが行動しようと思わせるしくみづくりが何より大切です。

(1) 省エネ担当者の設置

各部署毎に、中心となって活動を進めていく省エネ推進員を設置しましょう。こうすることで、事務局自身の負担が減るとともに、各部署が主体となった取り組みにつながりやすくなります。

また、より多くの人に責任を持ってもらうために、「OA担当」「照明担当」「空調担当」「機械設備担当」など取り組み項目に合わせた担当を設置するのも良い方法です。

(2) 省エネを進めるための工夫

① どのラインの照明スイッチかを明示

天気の良い日中は、窓側の照明を消灯しても業務には支障がありませんが、どのスイッチを消したら良いか明示していないと、消灯にはつながりません。シールなどを使って窓側、廊下側など、一目で分かるように明示しましょう。

工場棟でもライン毎に明示することで、出勤してきた社員が自分のラインの照明だけを点灯するようになり、大幅な電気使用量削減につながります。

② 掲示による社員意識の高揚

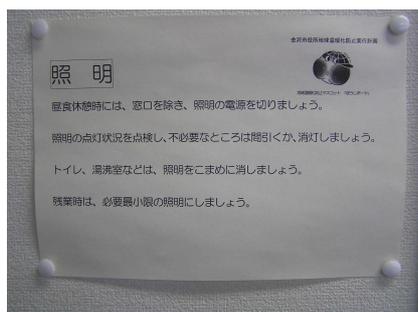
日頃から省エネ活動を意識づけるために、照明や冷暖房機器のスイッチなどに節電や消灯の徹底、適正温度の徹底を呼びかける貼り紙を掲示しましょう。

③ こまめなチェック

会議室を退室する際に備え付けのチェックリストで消灯や電源オフを確認させることにより、徹底を図ることができます。また、冷暖房温度の適正温度を徹底させるために部屋毎に温度計を設置し、確認しましょう。

④ 顧客や取引先への理解を求める

省エネ活動について顧客に理解を得るとともに、取引先へも広げていくための掲示を工夫しましょう。



節電の呼びかけ



照明スイッチ箇所の表示

活動成果をチェックしましょう

省エネルギー活動に取り組んだ成果を定期的に検証し、必要な見直しを行いましょう。

1 月単位で効果を確認する

部署毎に毎月の燃料使用量と使用金額を把握し、前月や前年度の同月と比較してみましょう。異常気象や組織体制の大幅な変更、生産高の大幅増加など特別な理由がなく、増加している場合には、その課題を検証し、必要な是正措置を実施してください。ある部署で取り組みがうまく進んでいない場合には、部門長を通して取り組みの徹底を図ってください。

2 成果や実施状況は、全社員へ掲示物などで知らせる

毎月の実施状況をグラフ化し、掲示板に貼り、成果や課題を常に全社員に伝えるようにしましょう。自分たちが取り組んだ結果がどれだけの成果につながっているかを示すことで、社員の一層の意識高揚につながります。

3 年度末には目標の達成率を確認し、必要な見直しを図る

年間の実施状況を取りまとめ、当初設定した目標に対し、どれだけの達成状況になったかチェックするとともに、個々の取り組みについても評価し、必要な見直しを図ってください。

【チェックリストの事例】

削減目標 事業所の電力使用量を2008年度において2005年度に比べて3%削減する				
目標の達成状況	年間電力使用量 (kWh)			実績削減率 (%)
	基準値 (2005年度)	目標値 (2008年度)	実績値 (2008年度)	
	150,000	145,500	148,500	1.0%
電力使用量の削減率は1%で目標を下回っている。前年度と比較して削減率は向上しているが、一層の取り組み徹底が必要である。				
取り組み内容	取り組みの実施状況	評価	改善すべき事項	
1. 冷暖房温度を適正に設定する	・一部の課で、冷房の温度を低めに設定しており、徹底されていない	△	・無関心な人をなくすため、点検結果を社員に周知する ・各課に空調責任者を配置する	
2. 昼休み時は不要な照明を消す	・全部署で徹底されている	◎	・特になし	
3. O A 機器や作業機器は使用しないとき電源を切る	・省エネ型の設備が増えた ・見過ごしが多い	○	・注意を促すシールを貼る	
4. 機械・設備等の点検掃除を定期的に行い適正運転を維持する	・週末に定期点検を実施 (点検日報による)	◎	・特になし	
5. 圧縮機等の電力損失を防止する	・フィルターの目詰まりをなくしたことにより、効果がみられた	○	・吸い込み空気を改善する	

※取組の評価 ◎；十分実施されている ○；ある程度実施されている △；あまり実施されていない